

追悼文

## 山崎健作さんを悼んで

10月31日夜、私たちの会のメーリングリストに藤田正一先生からメールが届きました。「札幌遠友夜学校を直接知る恐らく最後の一人、山崎健作さんが今朝、0時8分、肺炎のためご逝去されましたのでお知らせいたします」と。ご体調があまり思わしくないとはお聞きしていましたが、突然の訃報に私たちは言葉を失いました。

本会の立ち上げのきっかけとなった2012年12月1日、山崎さん宅で行われた「新渡戸稲造生誕150年記念講演会」の藤田先生のご講演他のイベントで、私たちは山崎さんから遠友夜学校の最後の在校生たちの話を聞くことができました。更に戦後の復興の中で、「青空子供会」とその運営のためにご尽力された様子を、気負うことなく淡々と語られていた姿を今でも思い出します。そして、この様なボランティア活動の動機が、遠友夜学校を遊び場にしていて新渡戸精神を知ったこと、特攻で死んだ仲間への思いにあったことも忘れることができません。

この席上、遠友夜学校跡地（今の「新渡戸稲造記念公園」）に建っていた札幌市勤労青少年ホーム（レッツ中央）が老朽化で解体され、その中に設けられていた「遠友夜学校記念室」が大通の札幌市資料館に移転し、跡地はどうなるのかという懸念から議論が始まり、「遠友夜学校記念館」の跡地での建設という提案から始まったのが本会でした。

講演会の主催後、「考える会」の会議室・事務所として2017年6月までの5年間、ご自宅2階を提供して下さった山崎さん、会議の度に美味しいお茶を入れて下さったり、温かい励ましの言葉を掛けて下さったりと、その清明で凛とした物腰に学ぶところが多くありました。

その後は、「人のためになることなら何でもさせて頂きます」という山崎健作さんのお言葉一つで、今も本会の新渡戸稲造記念公園清掃作業の用具を物置に置かせて頂いていることに、心から感謝しております。

これまでの数々のご厚意、ご助言に対して私たちは御礼の言葉をお伝えすることもなくご逝去されました。本会の役員ではございませんが、新渡戸先生を尊敬し、新渡戸先生の行動を身をもって示した「札幌遠友夜学校」の生き証人でありました山崎さんのご逝去を皆様とともに心から悼み、謹んでご冥福をお祈り致します。

（一社）新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会